

城里町の文化財さんぽ(三三)

町指定文化財(史跡)

毘沙門塚古墳群

指定年月日/昭和四八年一月二〇日
所在地/城里町高根 管理・所有者/個人



国道一二三号から県道阿波山徳蔵線を西行して高根台地上がり、真言宗の名刹大山寺を右に見て三〇〇メートルほど進むと、道路の左脇に町指定史跡の標柱と毘沙門塚古墳群の解説板が立てられています。

ここから南側一帯の東西一七〇メートル、南北三五〇メートルほどの範囲が、町指定史跡の毘沙門塚古墳群です。解説板には、「この古墳群は六

七世紀に

つくられた円墳で『センボツカ』を中心として分布している。『センボツカ』とは『千墓(ぼ)塚』という意味であろう。現在は盗掘されて僅かに原形を知ることができる。出土品は直刀・勾玉・



▲四号墳付近から出土した勾玉(個人蔵)

管玉・小玉等が数多くあったと言われている」と記されています。現在では、農耕等による破損が著しいため、古墳の石材の一部とみられる花崗岩の露出等から五基の古墳が確認できるのみです。

ところで、本古墳群の東側には、共に古墳時代後期から末期の古墳群で、本県では希少な蔵手刀(柄頭が蔵手状に屈曲する刀)を出土した高根古墳群があります。近接する二つの古墳群は、那珂川流域の古墳時代を解明するうえでとても重要な存在です。解説文/町文化財保護審議会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局 029-1288-3135

俳句

朝の日に青葉の霜の輝けり 仲田 まちゑ
霜柱ぎくぎくと踏み元気なり 飯村 昭子
真青なる空へ向かひて冬木の芽 今瀬 多代美
初詣海見ゆる坂登りけり 鯉淵 寿美恵
あら玉の雪うつすらと信濃路 森 静江
全身に光を浴びて冬木の芽 中野 千賀子

久慈川を震はせ笹子鳴きにけり 綿引 英子
氏神様の揺れる灯明初日の出 瀬谷 博子
炊き立ての湯気のからまり初出勤 竹内 幸子
デー新年明けの音高し桂の鼓 岩下 金司
鉄弾く低き日差に冬耕す 田口 勝元
わが人生百年近し梅ひらく 寺門 孝子

川柳

お年玉数える孫のえびす顔 富田 多蔵
初詣ご利益多大二百段 車田 綾子
正月はトランプよりもかるたとり 飯村 孝一
如月や早咲きの梅人を呼び 川原 清



文芸しろさと

短歌

さらさらと蓮葉の上の水玉が風に揺れるて光を放つ 所 美恵子
子育ての頃の幸せ語り合ふしばし逢いたる妹との時間 山形 式妙
「また来てね」その言の葉の温もりを抱きて加はるゲートボールに 杉山 みちこ
朝もやに浮かぶ筑波の峰眺む冬至迎ふる陽ざしの中に 大森 久子
信号の赤ことさらに長く思ゆ孫の運動会への秋晴れの朝 渡辺 千紗子

残生を心ゆたかに生きようと 齢重ねて思う新年 枝 不美
あらたなる年のはじめの茜雲たなびく空に初日おろがむ 島 愛子
一年を無事に過ぎたと除夜の鐘聞いて静かにテレビを止めぬ はなれ住む男孫夫婦が来てくれし会話はずみぬ元日の午後 坪井 きよ子

活け花の啓扇桜眺めては夫と静かに新年祝う 菌部 光子
ワンワンと今年は僕の一年だ心晴々幸せ元旦 富田 欽子

案じいたる卒寿の姉は柚子を挽ぎねぎや大根抜きてくれたり 萩谷 登喜子
夕茜薄れゆく空に光り増す眉の月あり北風寒し 富田 佐智子

